

平成 27 年度水産研究成果情報

課題名: スサビノリの生長に及ぼす芽付きの影響

[背景・ねらい]

近年、佐賀県では、養殖品種アマノリ類以外を養殖網に付着させないこと等を目的に、養殖網へのノリ葉体付着数(以下、芽付き)を多くする傾向にある。芽付きは、乾製品の生産枚数や品質に大きく影響すると考えられるものの、芽付きに関する研究は少なく、芽付きがノリの生産に及ぼす影響については十分に解明されていない。

そこで、今回は、ノリの芽付きが生長に及ぼす影響について調査した。

[成果]

試験には、スサビノリ養殖株のクローンである J-S5-0 株を用いた。芽付きは、8cm のクレモナ糸 1 本あたり 24、79、および 198 個(養殖網糸を顕微鏡観察した際の 1 視野あたりに換算した場合、約 3、11、および 28 個)となるように調整し、それぞれ薄付き、普通付き、および厚付きと称した。これらを水温 18℃、塩分約 30、光強度 90 $\mu\text{mol}/\text{sec}/\text{m}^2$ 、12 時間明期:12 時間暗期の条件下で 30 日間培養し、葉長、葉長葉幅比、さらに、葉長や葉長葉幅比に影響を及ぼす二次芽の放出数を定期的に測定した。

その結果、葉長は、培養 18 日目までは全ての芽付きで同程度であったものの、その後、薄付きは他の芽付きよりも大きくなる傾向にあった(図 1)。培養 30 日目における薄付き、普通付き、および厚付きの葉長は、それぞれ 116、76、および 66mm であり、薄付きが他の芽付きよりも有意に大きかった(Steel-Dwass test, $p < 0.05$)。葉長葉幅比は、期間を通して全ての芽付きで同程度であった(図 2)。なお、二次芽の放出数は、培養 24 日目に普通付きで 3 個確認されたのみで、全ての芽付きで同程度であった。

以上のことから、養殖網への芽付きが多くなるにつれ、生産枚数が減少する可能性が示唆された。

[課題・問題点]

特になし

[今後の対応]

芽付きが乾製品の品質に及ぼす影響について調査する。

研究期間：平成 27 年～

研究担当者：ノリ研究担当 三根崇幸、森川太郎

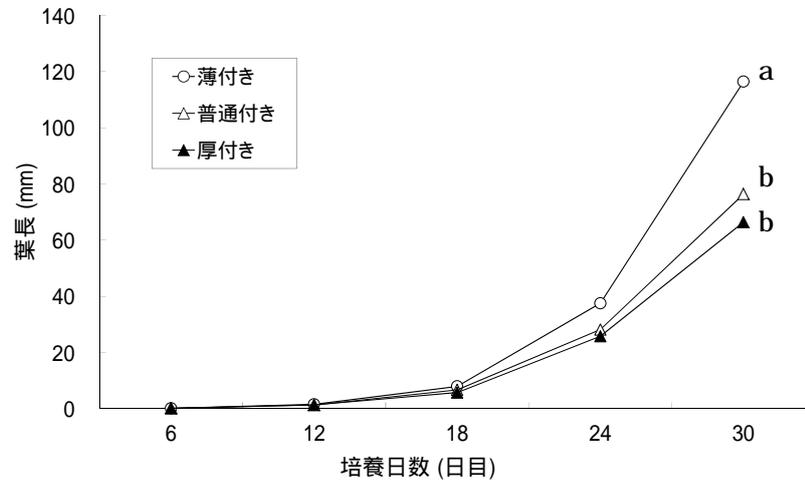


図 1 葉長の変化

異なるアルファベット間には有意差があったことを示す

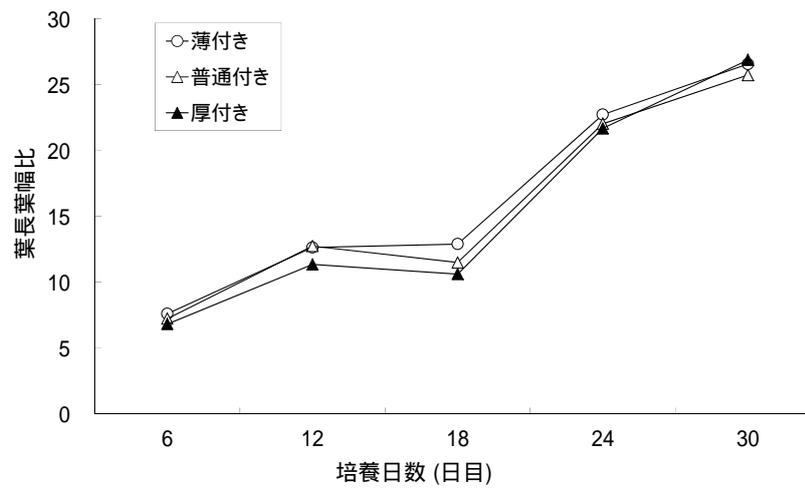


図 2 葉長葉幅比の変化